

2010 年度第 2 四半期決算説明会 サマリー(2010 年 11 月 8 日開催)

(1)2010 年度第 2 四半期 決算概要

①売上高 1,767 億円 前年同期比+284 億円 (数量増+216 億円・販売価格差+68 億円)

②営業利益 126 億円 前年同期比+ 53 億円

(要因別内訳) 数量増加 + 90 (電子材料・有機系素材その他全セグメントで数量増)

交易条件悪化 ▲ 46 (原燃料コストアップ▲114>製品価格+68)

負担増 ▲ 43 (需要増対応に伴う償却費・修繕費・人件費等の増加)

在庫要因 + 52 (09/3 末▲40 -> 10/3 末+12)

※増益の 80%近くが数量増効果で、とくに有機系素材(スチレン系・クロロプレン)と電子材料が寄与。

(2)2011 年度通期 業績予想

①売上高 3,650 億円 前年同期比+411 億円 (数量増+330 億円・販売価格差+81 億円)

②営業利益 250 億円 前年同期比+ 33 億円

(要因別内訳) 数量増加 +115 (インフル関連特需減を電材・有機系素材でカバー)

交易条件悪化 ▲ 55 (原燃料コストアップ▲136>製品価格+81)

負担増 ▲ 85 (需要増対応に伴う償却費・修繕費・人件費等の増加)

在庫要因 + 58 (09/3・9 末▲40 -> 10/3 末・9 末+18)

※円高(想定 82 円)、年内の電材調整局面、高分子ヒアルロン酸のプラント稼動に伴い負担先行となること、今年度はインフル特需がないこと等から、結果として 2010/3-4Q は 2010/1-2Q 並みとみている。

(3)その他

①収益構造

千葉の機能樹脂の数量増となる一方、数年来の取り組みが奏し DSPL が黒字体質化したことを市況が後押ししスチレン系の収益が改善。加えてクロロプレンゴム拡販等により有機・無機の「素材事業」が営業利益に占める割合は、09/2Q14%→09 年度 18%→10/2Q31%→10 年度予想 32%と回復基調。さらに安定的な収益基盤とすべく「素材」の再構築に取り組む。

②DENKA100&100 周年にむけて

・アジア拠点拡充

中国に研究開発拠点開設(並行してシンガポールにも)・韓国販売現法設立・シンガポール IP 樹脂

・クロロプレン、医薬での大型投資は早期回収を目指す

・3 年計画

1 年延長した DS09 は未達となる見通したが 100 周年に向けた次の 3 年計画を策定中

・投資姿勢

素材型で需要の見込まれるものは需要増を追いかける一方、電材等開発から急激に立ち上がるものは能力に余裕を持ち需要を待つ姿勢で投資

・100 周年事業:

当社の基盤となっている水力発電の整備、中央研究所の強化建て直しその他

(4)質疑応答

①蛍光体の見とおしは？

- ・当初期待より需要の立ち上がりが遅れている。液晶テレビの在庫調整等で2Q後半から出荷が低調となっているが、来年初より数量増を見込む。

②クロロプレングムの需要動向と原燃料価格上昇に対する価格対応の進捗は？

- ・需要は堅調で、特に中国は接着剤関連用途の引き合いが多く、新設予定の中国研究開発拠点の業務もクロロプレングム中心となる見込み。一方価格面では、輸出比率の高い製品であるため、円高環境下ではドル建ての値上げが円高に相殺されてしまっている状況。ただし、更なる価格是正を進めることで、期後半には効果が現れてくると見ている。

③スチレン系事業好調の理由は？

- ・千葉の機能樹脂が安定的に出ていること、シンガポールで稼働率と原料スプレッドが維持できる体制に転換できたことが大きい。

④デンカ生研の状況は？

- ・昨年は年次ワクチンに加えて新型インフルエンザワクチンを製造出荷したが、今年はこの新型株が年次に組み入れられたことによる数量減に加え、新型株には鶏卵がより多く必要でコスト高となるため収益は厳しい。また検査試薬の出足も遅く、当初予想で織り込んでいたことではあるが、機能・加工製品事業が前年度比大幅減益となる主要因となっている。

⑤次の3カ年計画におけるアジアの拡充等に関するもう少し詳しいコメントは？

- ・具体的なことや数値目標等はまだ言えないが、一つの例として、インフラ整備で使われる特殊混和材は、今後東南アジアでの需要増が期待できる製品。中国の開発拠点や香港等の販売拠点を設けた目的のひとつでもある。

⑥今後の設備投資額の見通しは？

- ・数年に亘り工事を行ってきたクロロプレングムと医薬品の新設備は順次稼働し、これにより大型投資は一段落した。その一方、電材は「需要を待つ体制」で臨むべく継続的に適時投資を行うが、金額はそれほど嵩まないことから、今後の通常設備投資額は減価償却の範囲内程度となろう。それに水力発電所の更新等を計画している100周年事業(すべてが設備投資ではないが)を加えても年額200億円以内の投資となると考えている。

⑦通期業績予想据え置き理由は、見直した結果が同じだったからか、下期の状況が見えないためか？

- ・電材を相当厳しく見たほか、あくまで製品、事業毎に積み上げた結果としての通期業績予想据置。

⑧10年上期の素材事業の利益貢献度は全体の30%程度だが、これを上げる自助努力は？

- ・ひとつはセメント事業の需要半減に応じた生産販売体制をつくること。販売面では既にセメントと特殊混和材の販売拠点統合を実施、物流面でも縮小均衡にむけて専用船の見直し等を進めている。
- ・一方特殊混和材では、拡大する東南アジアのインフラ関連需要を取り込むべく、積極的に海外に出て行くことで再度成長製品になることを目指す。
- ・また、クロロプレンは確かに円高の逆風下だが、ドル建価格の修正に努めるとともに、新市場であるインドでの積極的な拡販を行う
- ・こうした展開で素材を持ち上げようと思っている。

以上